

OB会報

湘南サッカー部 OB会報 第34号



OB会会長 37回生 牧村 英樹

サッカー部現役が全国サッカー選手権神奈川予選大会でベスト4を明け、横浜市立東高校と戦い惜しくも0...1で敗れました。その横浜市立東高校は準決勝戦で日大藤沢高校を4...1で撃破、決勝戦では惜しくも桐光学園に敗れ、優勝は逃しました。私達の湘南高校サッカー部は今一步のところまで来ています。過去、全国大会優勝！関東大会優勝！そして全国大会ベスト8！等輝かしい戦果を挙げた時代もありましたが、近年、足踏み状態が続いていた中、今回の県予選のベスト8入りはなんと27年ぶりとのこと！

着実にチームは強くなってきています。OB各位に於かれては一層チームの成長を見守りつつ引き続き力強い応援をして頂きたいと思います。

今の現役選手は身体も大きく、技術的にもとても優れていると思います。スペイン遠征等外国の選手との試合経験を含め環境的にも恵まれていると思います。時代の変遷に伴いサッカーのスタイルを始めとして多くのことが変わりましたが、

あまり変わらないであろう選手のメンタルという側面に少し触れて見たいと思います。

現在の現役の試合を観戦していると、恵まれた体力に併せ一部の選手においては素晴らしい技術を持ち合わせているのを見るにつけ、もっと勝っても良いのでは？と思ってしまう。当然のことながら、相手チームも勝つために負けず劣らず、又それ以上の練習を積み重ねていることですから当然ながらそう簡単なことではありませんが。

時代を超えて、昔の強かった時のチームと現在の現役チームが同じ条件で試合をしたらどちらが勝つのだろうか。こんなことを想像していると楽しくなる自分があります。

単純に考えれば、今の現役の方が多分勝つだろうと思う反面、いや待てよ、いい勝負をするんじゃないだろうか、ひよつとしたら、昔の強かったチームの方が勝つじゃないだろうかと思ったりもします。現役の試合を見に行かれた方は一緒に考えてみて下さい。

昔のチームは時代背景の違う中で単純明快なサッカースタイルの下、監督・先輩等から規律を重んじ、やたらと汗をかくことを強化され、基本を徹底指導されてチームが出来上がっていたような気がしますが如何お思いでしょうか。

現役の皆さんは直接的にも間接的にも自分にとって見本となるような選手に接する機会が環境的に確保されています。それだけに、なりたいたい選手へのイメージ造りもし易く、自己実現すべき目標設定も可能であると言えます。このような環境下、優秀で個性的なレベルの高い選手が輩出されてきていると思います。

単純明快、そして基本重視・原則厳守的なサッカースタイルで徹底的に汗を流し精神的なタフさを求められた昔のチームに対し個性的で技術的にはレベルも高いものの、厳しい指導環境をあまり経験していない現役チームの試合といった気がします。

別の表現をすれば、好むと好まざるとメンタル強化を自ずと身につけさせられた時代のチームと自分自身でメンタル強化を図る努力が求められる時代のチームとの違いであるような気がします。精神面が強化されたチーム対個々の自由性が主体とされたチーム対決なのかもしれません。

それでは、恵まれた体力、豊富な技術力に裏付けされた現役のチームが更に強くなるには、現在の練習に加え、精神面の強化！つまり「心」「気」の強化を図ることがとても重要な要素になるのではないのでしょうか。

個々の選手のモチベーションを高め、自分の意思でポジティブに自己成長を目指そうとする選手を育て上げていく指導方法が加わる事によって、結果として選手のメンタル面が強化され、相手チームを上回った精神力を持った戦う集団への変貌が実現されるとしたらすばらしいことと思います。

最近では、かなりのスポーツの世界において、メンタルトレーニングの指導者がついています。私達OBも現役選手強化に向けた、この分野での支援を検討すべき時期にきたのではないのでしょうか。



56回生 水戸 将史

衆議院・総務委員会
とくしもの

国会でも地方議会でも審議する場として、常任および特別といった委員会形式を取っております。議員個々でも

自らの得意分野や、また関心の高いテーマがあれば、それを所管する委員会に入ることを希望します。私自身、参議院時代は財政金融常任委員会にずっと所属しておりましたし、ODA（政府開発援助）に関心がありましたので、その特別委員会に所属していたときもありました。

現在は、総務省とやり取りをする衆議院・総務常任委員会に所属しております。総務省はご案内の通り、旧自治省、郵政省、ならびに総務庁を1つに統合した巨大官庁です。取り扱うテーマも地方行政や放送・通信、郵便など、多岐にまたがっておりますが、まあ、委員会が開催されるたびに法の制定やら改正やらを巡って、目まぐるしく議論が交錯することもしばしばです。

そんな中、去る11月4日には郵政民営化の象徴として、貯金ないしは保険を扱っている2つの会社の株式上場がなされました。湘南OB諸氏でも、すでにご購入されている方がいらっしゃるかも知れませんので、これから末永く発展して株価が上がり続けることを祈りましょう。ところで、この郵政関連で最も気に留めなければいけないのは、いかにして郵便業務のユニバーサルサービスを維持するかということに尽きます。つまり全国どこでも一律料金、定められ

た期間内に確実に届くシステムを維持することです。

確かにこれを巡っては民間の宅配業者とのせめぎ合いが随所で見受けられ、私たちとしても規制改革を進めながら、なるべく民間の活力を注入すべきと主張し続けております。しかし一方、完全に市場原理を導入してしまいますと、益々地域間格差が広がっていき、地方に行けば行くほど活力も削がれ疲弊していきますので、何とか郵便ネットワークを維持し持ちこたえる必要性も認めざるを得ません。

先日、委員会視察でフランスを訪ねました。ちょっと余談になりますが、かの国は世界に冠たる観光大国ですね。年間8000万人以上の外国人観光客がフランスを訪れます。それに比べ、我が日本は円安メリットのお蔭で観光客数が急増しているというものの、2000万人弱。隣国の韓国でさえ、今までも一貫して日本を上回っていることからして、やはり観光政策については国・地方問わず、もちろん一線線において熱意と注力を上げていくべきでしょう。話を元に戻しますが、そのフランスにおいて、「ラ・ポスト」は日本に先んじて郵政の民営化を進めてきた会社です。我が国との相違点は、まだ全株式を国が所有していること、そして金

融や保険事業の歴史は浅く、民間企業と同じ条件で参入を強化しているというところ。したがって、国主導でこうした事業を拡大させながら、減少傾向にある郵便事業を支えていこうという思想があります。仮に日本でこんな形態を取ろうなら、すぐに民業圧迫との批判の大合唱が起りますが、その点は悠長なお国柄なのででしょうか。またこれから公共に関する手続きを順次、郵便窓口で取り扱えるようにする方針です。わざわざ役所に向かなくても、住民票ほか個人に関する証明書の発行や、もちろん公共料金支払い業務もきちり担えるようになります。

翻って我が国では、これからマイナンバー制度が施行され、郵便局以上にコンビニのネットワークが重要視されていきます。そんな中で、都市および地方問わず郵便局の存在感をどういった形で高めていくのか、株式会社化とともに、まさにこれが試されることとなります。



71回生 西 智

サッカーと選挙と私

サッカーと選挙と私

初めて投稿させていただきました71回生の西智と申します。71回というのはちょうど校舎の建て替え時期に当たり、旧校舎・プレハブ・新校舎の3つの校舎を経験した年代です。湘南で藤塚久雄先生にサッカーのエッセンスを教わり、現在は藤沢市1部リーグでプレーしています。

「藤沢の子育て・教育環境を良くしたい！」という思いから、藤沢市議会議員選挙に挑戦することを決意したのが2014年11月。決意をしたのはいいものの、14年間IT畑でサラリーマンをしていた身、何をどうすればいいのかわかりません。まずは妻の説得から始まり、子供に説明をし、両親を説得し、会社を説得し、退職日が2015年3月31日と決まりました。仕事をしながら選挙に向けた準備をします。選挙のノウハウ本を買いあさり、必要な手続きを調べ、必要な物品を揃え、公職選挙法上やつて良いこと悪いことを頭に叩き込みます。2歳、5歳、7歳の子供3人を育てる親として選挙にお金はかけられないので、選挙資金は20万円としました。政策やプロフィールを載せたリーフレットが3万枚で11万円。事務所賃料が4万円、タスキが2万円、選挙ハガキが6千円、名刺が5千円、ノボリが5千円。合計19万円弱と予算内に収

めることができました。別に供託金が30万円かかりますが、ある程度の得票数があれば戻ってきます。

3月14日、立候補予定者に事前説明会が行われました。立候補届出に伴う手続きや公費負担制度についての説明があり、選挙運動に関する資料や選挙公報の原稿などを受け取ります。いよいよ選挙が近づいてきたことを実感します。

3月31日、退職し選挙モードに突入します。ところが、選挙の告示日(市議会選挙は投票日の7日前)までは、「選挙に出ます!」とか、「清き一票を!」というような選挙活動はNGなのです。朝駅に立ち政策の書かれたリーフレットを配る際も、名前が書かれたタスキやノボリはNGなのです。よく「本人」と書かれたタスキをかけている候補者がいるのはそのためです。「藤沢をこうしたい!」とか、「藤沢をこう変えます!」というようなことを訴える政治活動だけが許されます。新人候補者は名前を覚えてもらうのは本当に難しいと感じました。

4月19日、告示日を迎え、候補者またはその代理人が市民会館に集まります。40台以上の選挙カーも一同に集まり、異様な光景です。(ちなみに私は選挙カーを使わず、サッカーで鍛えた足で、自転車のみで市内を周りました。)くじ引きで受付の順番を決めます。その順番が選挙ポスターを貼る位置の番号になります。私は強運により1番を引き当てました。立候補の受付を済ませた後、他の候補者は選挙カーに乗り込み市内を周る中、私はサッカーの試合に向かいました。実は告示日当日に藤沢市総合選手権大会があり、人数が私を入れて11人のため選挙活動を一時中断しボールを蹴ってきました。試合に向かう途中の時間も無駄にできません。ジャージ姿にタスキをかけて、道行く人に声を掛けながら試合会場に向かいます。そこで気が付きました。ジャージにタスキが珍しいのか有権者のウケがいいのです。選挙期間中スーツはやめ、ずっとジャージにタスキのスタイルでいくことに決めました。

4月26日、投票日を迎えました。開票が行われる秋葉台体育館へ足を運び、結果を待ちます。3053票をいただき36人中17番目で当選いたしました。今思えば、あの告示日の試合のおかげもあって当選できたのかなと思います。サッカーの試合が人生を変えてくれる出来事になりました。

只今藤沢市議会議員として市政に邁進しております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



ペガサス70の活動報告

30周年 中原 弘巳

ペガサス70が2008年に発足してから7年になります。この時期は丁度全国的に多くの0-70大会が開催されるようになった時でした。それに合わせ、ペガサス70は県内だけでなく、県外を含めなるべく多くの大会に開催初期から参加するようにしてきました。その後の選手層高年齢化にともない、最近では0-75や0-80の大会も開かれるようになり、ペガサスもまた他のチームもそろそろ世代交代の時期に入っています。今後の0-70の活動の参考にして頂きたく、本年度の活動報告を各大会の成り立ちや特徴を含めて記載しました。

日本協会主催の全国シニア0-70大会は2007年から始まり、ペガサスは当初の4大会は連続参加でしたが、その後県や関東予選が行われるようになり参加できていません。今年の県予選神奈川リーグは、茅ヶ崎、イースト、ウエストを加えて4チームでの1回戦リーグ戦方式で実施しました。ペガサスは

U-76の若手主体でチーム編成し優勝を目指しましたが、最終的に茅ヶ崎との首位争いとなり、引き分けだったものの、他チームからの点取り争いによる得失点差で1位になれませんでした。

県シニアリーグ70雀は2011年から始まり5年目となります。チーム数は上記神奈川リーグと同じ4チームのみで増加していません。60雀リーグが2005年から開催されていることを考えると、60代後半にプレイを止めてしまう選手が多いようです。上記神奈川リーグと同じチームでのリーグですので、このリーグも1回戦制の3試合としていきます。結果は茅ヶ崎に敗れ2勝1敗で2位でした。0-70のチームは全国的に70代前半の若手主体となり、練習量も豊富になっています。ペガサス70も若手の参加と日常的な試合や練習の実施が必要です。

関東チームの交流親善のための大会としてGリーグがあり、関東各地で試合を行っています。今年は、埼玉と千葉大会に参加しています。加えて埼玉県主催の関東シニア大会があり、合わせて6試合で2勝4敗でした。

刈谷のスーパーエイジサッカーは今年で22回開催となる古くからの大会で、湘南OBチームの時代から、0-60の時を含め最初から参加しています。最

近は大学、高校OBチームの同窓会的な大会になっています。「生涯現役ずく」とサッカーや「らまいか」スローガンの静岡掛川ECOPA大会は高年齢者の生涯現役を目指す大会です。10月実施の清水4県親善交流会では、清水地区チームとの交流を深めています。3月実施の清水大会には東海、関西、関東チームが集まります。昨年度は3戦2勝1敗でした。これら4大会を合わせて、10戦6勝4敗でした。

ペガサス70発足と同じ年に始めた、東日本ロイヤル大会は0-70チームのみの大会で、自然に恵まれた那須の良環境の中で、東北と関東チームの親善の場となっています。今年は3戦3勝でした。

これらの対外試合を合計すると、25戦15勝9敗1分けとなります。

県協会の事業として、平塚馬入の人工芝グラウンドで、8月を除き年間を通し、毎週火曜日に0-70の練習会を、神奈川のチームで行っています。年齢や体力、技術によらず、誰もが日常的にボールに触れることが出来ます。このなかで、前記のリーグ戦と同じチーム構成でロイヤルリーグを全員参加で、毎月2試合（年間予定22試合）行っています。

昨年続き、今年も0-75の大会が

宮城で行われ、ペガサスメンバーは首都圏チームに加わって参加しました。上記のECOPAや那須の東日本ロイヤルでも0-75のカテゴリーが設けられるようになりました。今年から、0-75の練習会をほぼ毎月2回、みなとみらいや川崎の人工芝、そして三沢、小机の素晴らしい天然芝で、行っています。0-80堺大会も今年は第2回を迎えました。

ペガサス70の活動目標は若手チームの強化と高年齢の方々に生涯スポーツとして長くプレイを続けて戴くことと思えます。



ペガサス65の活動報告

41回生 二木 修二

ペガサス65は主に神奈川県外の065の大会に参加しています。今年4月埼玉大会2試合参加、4月市原大会2試合参加、6月栃木那須大会2日間4試合参加、7月茨城大会はシニアリーグとの日程の重なり等でメンバーの確保ができず不参加、10月関東埼玉深谷大会2試合参加、11月東京那須大会4試合に参加、年間合計14試合6勝6

負2分、得点12、失点12。勝率は丁度5割ですので順当でしょうか。

湘南サッカー部出身の主な参加者は牧村、山宮、伊通、二木、庄司、渡辺、田部井、加納、溝口、坂部(敬称略)です。湘南出身メンバーの諸先輩は相変わらず若々しく、強力な助っ人ですので、監督としてはメンバーの布陣を考える場合に貴重な戦力になっております。

我がチームは守備ではボールを奪ったときに前へ蹴りだすことが多いので、リスクがありますが相手が迫ってきてら横でも後ろでもいいからパスを繋げるようにしたい。その為には高校時代には徹底的に練習したサイドキックで近くの味方に精度のよい正確なパスを一人一人がするようにして、自分たちの湘南ペガサスのリズムを作っていきたいのですが、そこをどう実現するかが課題でもあります。

一方、Gリーグの戦いはメンバーの確保、そして確保は故障との戦いでもあります。私自身のことでも恐縮ですが、一昨年は試合中に脚を引つ掛けられて転倒し、鎖骨骨折してしまいました。完治まで約6か月要したし、今年は埼玉大会の第一試合で左脚でシュートしたがそれが元で肉離れしてしまいました。シュートして肉離れとは我ながら情けない。その後はプレーできずメンバーに迷惑をか

けてしまった。

今年も相変わらずメンバー集めには、特に田部井さんが苦勞されました。諸先輩にも参加していただきまして、今年は人数は何とか揃えることができたのですが、怪我や故障の方もおられますので全員参加型のチームとしてはメンバーをどのポジションで起用するか悩むどころがあります。時には11人ぎりぎりだったりするわけですが、このようなときには2日間で4試合するのは非常に厳しい状況であります。来年は65にも若手が入ってきそうですのでメンバー集めの苦勞からの解放を期待しています。

来年の3月で湘南高校を卒業してもう50年になる。50周年を機会に思い起こせば我がサッカー人生は中学3年間、高校3年間、大学4年間（一応）、社会人（1年位）、その後海外赴任もあって長い間サッカーはブランクになっていたが、帰国後ペガサス55に加入させていただきました。ペガサスでの在籍は約12年程になる。現在はペガサス65で監督をさせていただいておりますが、50年経ってもサッカーでの一番の思い出はやはり湘南での3年間ですね。特に湘南高校、県営グラウンドなどで行った夏の合宿での厳しさも、今となつては、懐かしい思い出です。学校での普段の練習でもサイドキックなどの基本的な

練習に始まり、フォーメーションの練習、インターバルのダッシュなど鈴木先生の熱血指導を受けて、関東大会での優勝など思い出が一杯あります。

60代後半になり体力の衰えは毎年感じてくるものの、毎日できる限り腹筋、スクワット、腕立て伏せ、つま先立ち、ボールタッチなどの運動をやっているが、毎日となると中々できない時も、それでも継続して、体力の維持をしたいところ。諸先輩では80才でペガサスSC70で頑張っておられるし、最近テレビで、92才の世界記録保持者の日本人女性アスリートが紹介されていた。卒業して50周年の目標は自分も80才〜90才までは頑張りたいと思う今日この頃である。



ペガサス60の活動報告

46回生 森秀樹

まず、ペガサス60の今季これまでの戦績をご紹介します。

2015年の神奈川県シニアサッカー六十雀リーグは10月に終了しました。ペガサスシニア60の最終成績は、17チーム中5位でした。まずまずの結果と言

えますが今年のチームはもつと上位を狙える力を持っていると思います。

一方、全国シニアの神奈川県予選は、13チームが参加、ペガサス60は5試合消化した現時点で0勝2敗3分けという成績です。5試合終了時点で合計2得点というのは13チーム中下から2番目。とにかく得点力を上げる工夫が必要です。

シーズンを通じてバックは安定した守備を見せていますが攻撃はまだまだ工夫が必要です。組織的な攻撃がなく、FWが相手ゴールへ向かって一人でドリブル突破を繰り返す単純な攻撃パターンが多くみられます。当然相手バックはゴール前の守備を固めてきますが、それを個人技で突破することは非常に難しい。

意図のある組織的な攻撃パターンを確立する必要があります。私はタッチライン沿いに外から攻めて相手バックをそのサイドへ引き付け、ゴール前にできたスペースに2列目3列目が飛び込む形が最も得点になりやすいと考えます。湘南高校時代に中さんから何度も何度も繰り返し練習させられたパターンです。当時MFだった私がボールを持ったときのパスの選択肢は二つありました。一つはウイングの選手の足元へ強いゴロのパスを出してリターンをもらえる位置に

動く。もう一つはウイングが縦に走り始めた瞬間にウイングの前のスペースへスルーパスを出し、自分はゴール前に走り込んでセンターリングしてくるボールをノートラップでシュートするというパターンです。

来季はこの単純な攻めでゴールを量産していこうと思います。

今年は普段からの健康管理とトレーニングの重要性を強く感じたシーズンでもありました。

昨年開場した神奈川県サッカー協会の「かもめパーク」グラウンドで一〇月に行われた全国シニア神奈川県予選で、ペガサス55の新人会員が試合終了直後に一時心肺停止になったという報告がありました。幸い当日参加のメンバーの中に医師がおり、また試合会場にはAEDが備えてあったので事なきを得ました。この新人会員はそのまま救急車で病院に搬送され、検査したところ心臓の血管が細くなっているところが見つかり即入院手術となったそうです。現在は普通の生活に戻っているとのこと、本当に幸運だったと思います。

また、この夏には炎天下の人工芝グラウンドの試合で、熱中症の症状で審判から退場を命ぜられたプレーヤーがいました。明らかにフラフラで足元がおぼつかない危険な状態でしたが、本人は

大丈夫と言ってプレーを続けていました。審判から退場を命ぜられなかったら熱中症で救急車を呼ぶことになっていたかもしれません。聞くところによれば、そのチームは当日十一人のみ参加。控え選手がいまませんでした。このプレーヤーは、自分が抜けると自分チームが十人プレーとなってしまうと考えて頑張ろうとしたのかもしれない。本人はしばらくの間グラウンド横の水場で頭から水をかぶって快復したようでした。

シニアのサッカーは体調に十分注意する必要があります。我々のやっているサッカーは楽しむサッカー、健康維持の為のサッカーです。

決して命がけでやるものではありません。日頃から健康管理とトレーニング、そして試合前の準備運動をしつかりしてゲームに臨みましょう。

今年もいろいろありました。60歳を過ぎてサッカーをしていること自体に感謝して、これからも体調を整えて楽しいサッカーをしていこうと思います。



ペガサス55報告



監督 小石 巖

まず戦績ですが、県リーグは7試合で3勝4敗勝点9で8チーム中5位でした。

得点9、失点9と頑張りましたが、上位には惜敗しました。その後の順位決定リーグは1分2敗で結局16チーム中11位に終わりました。全国シニアはまだ最終戦が終わっていませんが、10試合で2勝2分6敗、勝点8と苦戦しています。

今年監督をさせて頂くことで、如何にして勝てるチームにするかを考えました。そこで、戦術の徹底でパスサッカーの精度を上げる目的で2〜3月はフットサルでショートパスを磨きました。一方、試合前のアップの強度を上げて、試合に即入ってゆけるようにしました。またホワイトボードを使ってポジションや戦術の徹底、試合後のミーティングで忌憚のない意見をぶつけ合うことで、次第にチームとしての一体感が醸成されてきたように感じています。更にメンバーによる積極的なスカウティングも功を奏し、現在登録メン

バーが30名に達したこともチーム力のアップに繋がったものと考えています。お陰様で毎試合15名程度の参加者があり効果的な交代も出来て、チーム全員で戦いが出来ているのが比較的良好な結果に繋がっているものと思います。また、55主体での古河マスターズ参加や時の栖合宿、練習試合等でサッカーのない週末は作らないことをモットーにしてやってきました。当方自身、ペガサスにお世話になって7年目になりますが、今後も20年前後はボールを蹴りたいと思うので、今のチームメイトは健康である限りずっと仲間になるんで仲良くしてゆきたいです。

2015 ペガサス50活動報告



50回生 八木 啓太

「勝敗や順位などの結果だけに拘ることせず、年齢相応にサッカーの美点

を楽しむこと、チームメンバー相互の良きコミュニケーションを持つことがその充実の度を増幅してくれるのだろう。」と昨年この場で書いたのだが、そろそろ終わろうとしている2015年はその目標がどのくらい達せられただろうか？

今シーズンはまだ中途だがこれまでを振り返ると、全日程終了したKSSリーグは4勝4敗3分、勝点15の5位。惜しくも優勝に届かなかった前年から勝点を10も落としてしまい、特に後半は息切れ状態で負けが込んだ。今の力量からするとだいたい実力通りというところだろうか

0-50神奈川リーグは残り2ゲームを残し、4勝2敗3分でブロックの上位に何とか食い込んでいるが、登録メンバーもKSSに比べると少ないこともあって毎試合人数確保が四苦八苦状態で残念ながら11人を割ってしまうこともあり、メンバーの立て直しの必要を感じている。もう一つの課題は平均年齢が高まってきたこと。イコール若手の加入が停滞していることだ。KSSでは今シーズン2部から上がった2チームには若手が多く、いきなり2位と4位に食い込んだことから、シニアの世界でも「ヤングパワー」は必要だ。

来シーズンは40から何名か加入があり、

大いに活躍を期待したい

前述の「サッカーの美点を楽しむこと」の追求は昨年は「まだまだ道半ばが実感」と書いたが、今年は更に後退してしまつたような気もして残念である。歳を重ねてもサッカーの向上心、研究心を失わず、溢れる情報も生かして、どうしたらもっと上手になれるか、どうしたらいいサッカーができるかを追求していきたいものである。

レジェンドととも



65回生 大隈 俊

今季シニアリーグ四十雀一部にてペガサス40は7勝3分け1敗で2位という好成績を収めることができた。優勝した横浜シニアとは勝点1差、直接対決では優勢に進めながらシュート1本の相手に1-1で引き分けるなど、優勝できるチャンスは多分にあったが、やや悔いの残る結果ではあったが、昇格3年目で、昨季は降格の危機にあえいでいたことを考えれば充分胸を張れる成績と言える。

今季は昨季の反省を踏まえ、山本監督の統率のもと、守備の改善からチー

ム作りをスタートさせた。前線からのチェーシングでサイドに追い込んでゴール奪取を狙うことを練習から徹底して行った結果、失点はリーグ最少の5点。その内訳もミドルシュート3、PK1、カウンタート1と、ほとんど守備を崩されることもなかった。また夏場の約2カ月の中断期間には各自の自主トレ内容をメールで報告し、情報共有することでモチベーションやチームとしての一体感を上げることに努めた。さらに山本監督の勧誘で湘南OBではないものの、新たに3人の選手が加入してくれた。守備が安定したことで、攻撃も、まだまだ個人能力頼みの所はあるが、少しずつ連動できるようになり、時には大量得点で勝てることもあった。特に宿敵、といつてもここ最近は今全く勝てていなかった鎌倉に4-0で勝利したのは圧巻だった。

こうしてチーム全員で勝ち取った結果ではあるが、中でも特筆したいのは、2人の先輩の存在である。1人目は攻撃の中心の田村先輩(64回)。チームの得点の大半に絡み、今季は2ゴール、7アシストと、自分だけでやるのではなく、味方を生かすプレーが光っていた。特に旭戦、優勝するには残り2連勝しかない試合で、最下位のチーム相手になかなか点が取れない状況が続く

と、次節出場停止になるリスクがありながらも激しいチャージで相手からゴールを奪おうとする気概を見せ、何度もドリブル突破でチャンスを作り、最後には自ら獲得したPKで1-0の勝利をもたらしてくれた。

2人目は守備の中心の若木先輩(64回)。今季は全試合に出場し、後ろからの叱咤激励で守備の安定に貢献するとともに攻撃でも高校時代を彷彿させるヘディングで2ゴールと活躍した。特に鎌倉戦で発症した肉離れを抱えながら残り3試合ほぼフル出場を続けたのには、これが本当の「離れ業」なのかと不謹慎ながら思ってしまった。

この2人の先輩は、1989年選手権出場時の主力なのだが、とりわけ感じたのはメンタルの強さである。もちろん加齢に伴う筋力の衰えにより、時には高校時代には考えられないようなミスをすることもあるのだが、いざという時に発揮する勝利への執念、ストイックに努力を続ける姿勢には、やはり感心させられる。高校卒業から25年たった今では、ピッチ外では冗談も言い合えるようになったものの、ピッチ内での存在感は、我々1学年下の同期5人が束になってもかなわない大きさだと思わせられるのである。

とは言え先輩方にもいつまでも頼ってばかりではいけない。個人的には、加入2年目でまだ試合出場も長くて15分という状況だが、筋トレを続けてなんとかまともに蹴られるようになり、最終戦では自分のクロスで3-2の逆転勝利の決勝点をアシストできた。努力が結果に結びつく喜びは、やはり何にも代えがたい。

現在チームは湘南OBが約半分と他校出身者なしでは、まかなえない状況であり、年々高齢化が進んでいる為、若手の加入は急務となっている。素晴らしいレジェンドとともにサッカーを楽しむみつつ優勝の喜びを味わいたいという特に40代前半の若手の皆様のご参加を是非お待ちしております。

トトカルチヨ湘南 活動報告



85回生 大川 雅士

湘南高校サッカー部関係者の皆様、いつもお世話になっております。トトカルチヨ湘南(以下、トト)の大川雅士(85回)です。今春より、社会人となりました。同時に、サッカー部OBコーチとしての活動を終えることとなりました。小生の経験が微力ながらチームに

貢献できていたら幸いです。皆様のご理解あってこそ、OBコーチが存在できるものと感じております。誠にありがとうございました。現コーチの石川、長、町田という頼もしい3人に期待を寄せます。今後、グラウンドに足を運ぶ機会は減りますが、その反面、社会生活を充実させ、おカネを運ぶことで、湘南高校サッカー部に貢献していきたいと思えます。

さて、トトの今年度活動報告です。結果は、2勝4分2敗で9チームリーグの中、6位で今シーズンを終えました。昨年、一昨年の活動報告にて、「来年こそは昇格」と宣言してきましたが、今年の報告でも吉報とはならず……。昇格に至らない理由を、「力はありながら、人数が揃わない」等としてきました。そのような状況下で昨年、チームの運営体制の改善を課題として挙げました。しかしながら、今年度も人数確保のために試合前日の夜まで登録者全員（約30名）に出欠の可否をヒアリングし、それでも人数不足となる試合が3〜4戦あり、惜敗を喫すこととなりました。登録者人数は他チームにも負けないと思っております。一方で、改善された例もあり、2点ご紹介します。1点目は、シーズン終盤に未消化試合を慌てて詰め込むことがなくなった点です。

昨年までは、残り2か月程で「あと何試合未消化があるのか」とバタバタしていました。今年度はコンスタントに試合をこなす、シーズン最終月に1試合を残すのみとなりました。試合の組み合わせは、前月に翌月分の試合可能日程を事前に事務局に連絡することとなっています。そこで、トト内のメンバーに事前に参加の可否登録を行ってもらい、最も参加人数の多い日にちを共有する体制を構築し、試合を消化していくことができました。2点目は、チームの世代交代が進んでいる点です。4年前からトトカルチョに所属している小生にとつては、ここ1〜2年の変化を強く感じています。所属当初、チームの平均年齢はおそらく20代後半でしたが、現在は20代前半。近年、OB会に出席する若手OBの人数が増加傾向にあることも影響してか、トトに（興味を持ち）加入する人材が増えていると思います。歳を重ねるにつれ、「動けない、動きたくない」という気持ちが増すようなので、若い力は非常に重要です。（所属当初、諸先輩方が言っていたのですが、この頃は小生も段々そのような状態に……）また、若手間ではサッカーの戦術に対する考え方も似た部分が多くあり、寄せ集めメンバーでもある程度どうにかなってしまうことがあります。他チー

ムには、平日練習を行っているところもあるようですが。若手にとつて、トトに入ることは、サッカーをやることに留まらず、歳の近い社会人と交流できること、湘南高校サッカー部の活動の変遷を知ることにより、多くのメリットがあると思います。大歓迎ですので、是非ご一報を！運営体制の改善を更に進め、2部昇格を果たしていけるよう努めてまいります。

湘南スプレッド1545 活動報告



79回生 櫻井 大輔

79回生の櫻井です。毎年、ビーチサッカーのことを書く機会をいただき誠にありがとうございます。湘南高校サッカー部OBを中心に、ビーチサッカーチーム『湘南スプレッド1545』を作り、9年目となりました。今年度は、FIFAのビーチサッカーワールドカップがポルトガルで開催され、露出が増えた年でした（日本代表はベスト8）。また、4月に一般財団法人日本ビーチサッカー連盟が発足し、JFAのビルに事務所を構え、普及・強化の体制が少しずつ整えられています。その効

果もあり、実際に、チームへの問い合わせが昨年の5倍近くまで増加しました。前置きが長くなりましたが、チームの今年の戦績をご報告します。年間を通じて行われる関東ビーチサッカーリーグでは、第4位という結果でした。また、全国大会予選は、県大会で優勝し、関東予選で苦戦するも、PK戦の末、第3位に滑り込み、3年連続で全国大会出場を決めました。兵庫県明石で行われた全国大会では、一昨年全国大会で勝利した福岡のドルソール北九州にリベンジを許し、予選敗退という結果になりました（その後、ドルソールは、2強の牙城を崩し優勝）。ドルソールは、選手の層が厚く、どの選手でも得点が取れ、多彩な攻撃パターンを持っていました。それに比べ、我がチームは、エースの渋谷選手への依存から抜け切れず、安定した強さを発揮できないシーズンとなつてしまいました。ここは来年の課題として持ち越します。更に深刻な課題としては、ナイター設備のある練習場が閉鎖されてしまい、平日の練習が厳しくなつたことです。今年度は、練習場の確保に向けて、行政や民間施設等との交渉を始めるなど、ピッチ外での戦いも始まりました。課題はたくさんありますが、スプレッドは、第一線で戦い続けていま

す。今年もこの場を借りて、選手及びサポート頂ける方を募集させていただきます。少しでも興味を持った方がいたら、一度だけでもビーチに足を運んでいただければと思います。

自身は、神奈川県サッカー協会のビーチサッカー担当、関東ビーチサッカー連盟の事務局に加え、今年、藤沢市ビーチサッカー協会理事と日本ビーチサッカー連盟評議員を任されることになりました。これからもビーチサッカーを通じて、日本から藤沢まで、新しいスポーツ文化の発展に寄与すると共に、OBの皆様にも明るいニュースをお届けされるよう頑張つて参りますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど、宜しく願います。

顧問報告



代表顧問
竹谷 睦

今年度も、OB会の皆様には多大なご支援を頂きましてありがとうございます。

私が昨年赴任し、今年で2年目を迎えています。昨年度同様、顧問の曾根先生・細川先生・遠藤先生と、OBコー

チの長コーチと今年から加わりました石川コーチ・町田コーチ、そして選手・保護者の方々に支えて頂きながら、リーグ戦、関東大会予選、インターハイ予選、夏季合宿、選手権予選と活動してきました。何より、鈴木中先生を始め、OBの相羽様、関様、山田様には年度当初から温かく見守って頂き、とても感謝しております。また、他にも沢山のOBの方々が合宿や遠征、また、練習・試合に足を運んで下さり応援して下さいました。選手を始め、サッカー部としてとても力になりましたことをこの場をお借りして御礼申し上げます。

さて、今年度の大会結果は、関東2次予選ではベスト16で桐蔭学園に敗退し、インターハイ2次予選でも同じく、ベスト16で日大藤沢に敗退と、ここ数年の湘南高校にとつてのベスト8の壁に、またしても阻まれてしまいました。しかし、インターハイの2次予選初戦の横浜創学館戦で、苦しみながらもPK戦の末勝利し、選手権2次予選へのシード権を獲得できたことは、7月後半から8月全てを選手権2次予選に向けた準備期間に出来たことへと繋がりました。その結果、選手権2次予選の準々決勝では準優勝した横浜市立東に0-1と敗退はしましたが、27年ぶりのベスト8という結果となりました。

今年のチームを振り返ると、3年生には入学当初から公式戦に出場していた選手も多く、経験値も高く、また、それらの中心選手に影響されて3年間で伸びた選手も非常に多かったように感じます。そして何より、いい意味でも悪い意味でもとても仲が良かったチームだと思えます。その反面、仲が良ささを持ち合わせたチームへと導けなかつたことについては、非常に悔いの残るところです。また、選手権2次予選期間は、部活、学業、行事と様々な面でコンディションが整いにくく、特に3

回戦以降の毎週の決勝までのスケジュールは非常に過酷だということも、勝ち上がっていくことが出来たからこそ経験できた事実であり、今後に繋がっていくと思えます。そして、3年生の中には、サッカーを本気で続けていくことを希望している選手もいます。受験だけでなく、それぞれの人生でこの経験をぜひ活かして欲しいと思います。新チームも始動し、引き続きのプロの指導者によるコンディショニング指導と小池コーチによるフィジカルトレーニングのもと、文武両道を目指し、『神奈川県制覇』を目標に日々精進して頑張っていきたいと思えます。

最後に、今度の3月には7回目を迎

える海外遠征が計画されています。前回同様、事前研修・説明会・手配等、様々な場面でOB会のご支援を頂いております。内容もとても充実しており、湘南高校サッカー部でしか味わうことの出来ない貴重な経験です。OB会の皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

今後とも引き続きのご支援の程よろしくお願い致します。

現役報告



今岡 知晃

今回、現役報告をさせていただく今岡知晃です。日頃より、OB会の皆様の心強いご協力とご支援により、日々充実した活動が送れていること、大変感謝しています。そのご支援への感謝の気持ちを忘れずに、期待にお応えできるよう日々の練習に取り組んでいきたいと思っております。

10月24日に東高校に敗れ、三年生の引退が決まりました。新チームでは今年ベスト8という結果を当たり前前に登りつめたいと思っております。

新チームの代は入学当時から竹谷先生にご指導いただいています。竹谷先生は当初から守備の面を重要視しており、一年たった今、献身性やヘディングの強さといった点で、着実に力をつけてきています。また、ウエイトの指導や食事の指導も取り入れて頂き、様々な角度からサッカーと向き合うことで、サッカーというスポーツの中に存在する多くの成長点を感じ取り、能力を伸ばすことができています。

今、新チームではパスに重点を置いて練習に取り組んでいます。数々の試合を通し、湘南と他の強豪校ではパスの速さや正確さに大きな差があると感じたからです。昨年一年間竹谷先生に教わった、湘南高校の特徴でもある「粘り強い守備」は継続し、攻撃の面では新たな長所として速くて正確なパス回しで相手を翻弄したいと考えています。

先日行われた選手権の神奈川県大会の決勝を部員全員で見に行きました。そこでプレーする選手たちはテクニック、力強さ、スピード、どれをとっても自分たちよりはるかにレベルの高いものでした。しかし、実際に見たことで、自分に足りないものを理解して、来年度の舞台で戦う自分の姿を想像することができました。神奈川制覇という目標から逆算し、日々の練習に必要なこと

を考え、練習に取り組んでいきたいと思えます。

また今年の春には、OB会の皆様のご支援による海外遠征が予定されています。サッカーの試合による交流からサッカーの技術を学ぶだけでなく、観光や学校交流などを通して世界の文化に触れ、多くのことを吸収したいと思えます。このような貴重な体験ができることをOBの皆様へ感謝し、帰国後は学んだことを生かして、日々精進していきたいと思えます。

部員一同、竹谷先生にご指導いただき、神奈川制覇、さらにその先を見据えて、活動をしていきたいと思えます。OBの皆様には、これからも変わらぬご支援をよろしくお願い致します。

27年ぶりのベスト8、健闘したと思えます。最後の10月は主力選手のケガが大きく影響してしまいました。ここ数年ベスト16の壁がやぶれませんでした。だが、先輩たちが積み重ねてきたレベルを伸ばしたことは評価してよいと思えます。私学優勢の中、県立では厚木北座間、藤沢清流に伍して、常に上位に位置しています。

今年のチームは、ほとんどの選手がポリバレンタ(複数ポジションをこなす)でありました。CFとCB、CFとMFとSBなど試合によって、別のポジション

で出場していました。怪我で出られない選手がいる場合の対応力は高まります。逆にいえば、たとえばCFの決定的な専門家に欠けていた、ということもありません。監督の指導・采配は、持ち駒をどう活かすかということなので、より選択肢が広がることとなります。



公式戦の観戦記は、年間10試合程度ですが、メール形式で550名ほどに送っています。

得点経過、ケガ人などに言及しており、外部への漏れを防ぐため、Facebookは利用していません。新規の受信希望者は、sek16644@yahoo.co.jp(関)まで、メールください。

スペイン遠征については、実施するかどうかを再検討しています。ISによるパリでのテロを踏まえ、今後の状況の変化によっては、中止を含めて慎重に見極めることとなります。今回はOB会と学校との共催ですので、原則として、学校の判断を優先します。学校は、サッカー部の遠征とは別に、アメリカ西

海岸語学研修旅行を実施する予定です。合計100名を越える生徒の安全確保が最優先されます。

サッカー部の遠征は、現状、ロンドンとスペインに滞在予定ですが、航空会社と経路地を参戦国以外にするコース変更を検討しています。スペインのバス地方がISの攻撃対象となる可能性は低いと考えられるので、安全性の確保しやすい地域だけでコースを組み立て直しています。

バス地方では、今シーズン3チームが1部で活躍しています。対戦するアスレチック・ビルバオ、サン・セバスティアンのレアル・ソシエダ。乾選手が移籍したエイバルは、小さな町のチームですが、11月末で6位につけ、ヨーロッパリーグ進出圏内と大活躍です。3チームあるので、日程的には試合観戦を組み入れることができそうです。

学校側とは校長を中心に、OB会側は相羽副会長と関事務局長を窓口にご意見を重ねています。父母への説明は、例年よりも回数を増やして丁寧な説明を行います。出発の間まで、旅行期間中、JT Bとスペインのコーディネイター・嶋貫さん、主催者で万全の体制をとって万が一にそなえるようにします。



■1年生?

■1期黄金時代?



特集 「写真で振り返る湘南サッカー部の面々」

<湘南サッカー>のHP「懐かしの写真館」より抜粋しました。

55回生以降の写真が少ないので、現役時代の写真などありましたら、スナップでも何でも気軽にご連絡ください。写真館に掲載します。管理は45回浅倉さんに行ってください。

写真郵送先〒251-0026 藤沢市鵠沼東2-1-812 浅倉 泰まで

問い合わせ・メールなど事務局長 関まで。

より詳しい写真は、ホームページ（湘南サッカーで検索）に掲載中です。

■16年生?



■15年生?



■21年国体全国優勝時のメンバー



■湘南高校赴任当時の鈴木先生



■当時の合宿所風景

■宮原先生&34回生・35回生・36回生

■36回生・37回生
関東大会準優勝（水戸）



■42回生



■湘南高校赴任当時の岩淵先生





岩淵二郎先生還暦記念サッカー 1969.9.7 於 湘南高校



■48 回生



■ 50 回生



■ 55 回生?



第67回全国高校サッカー選手権大会出場記念

SS 神奈川県立湘南高等学校サッカー部

■昭和64年正月



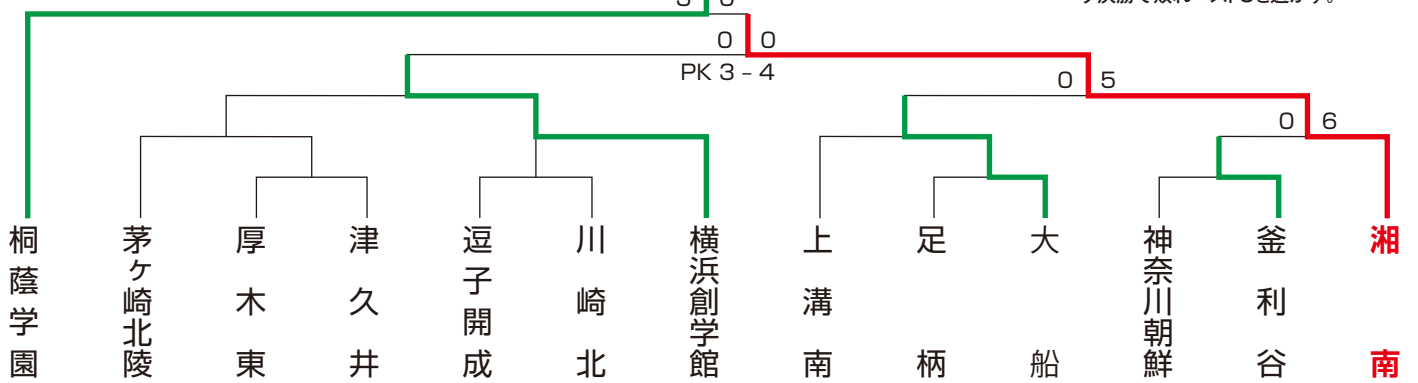
2015年度 部員

■ 第58回関東大会二次ブロック予選

桐蔭学園

関東大会(6月)県予選

8ブロックに分けての2次予選。ブロック決勝で敗れベスト8を逃がす。

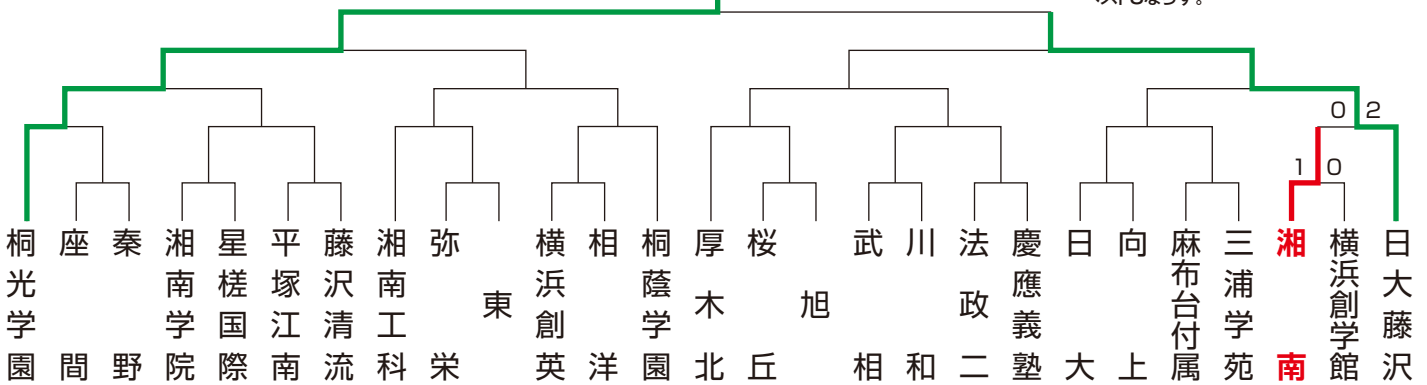


■ 第53回高校総体二次予選

桐光学園

インターハイ(8月)県予選

2次予選、2回戦で日大藤沢に敗れ、ベスト8ならず。

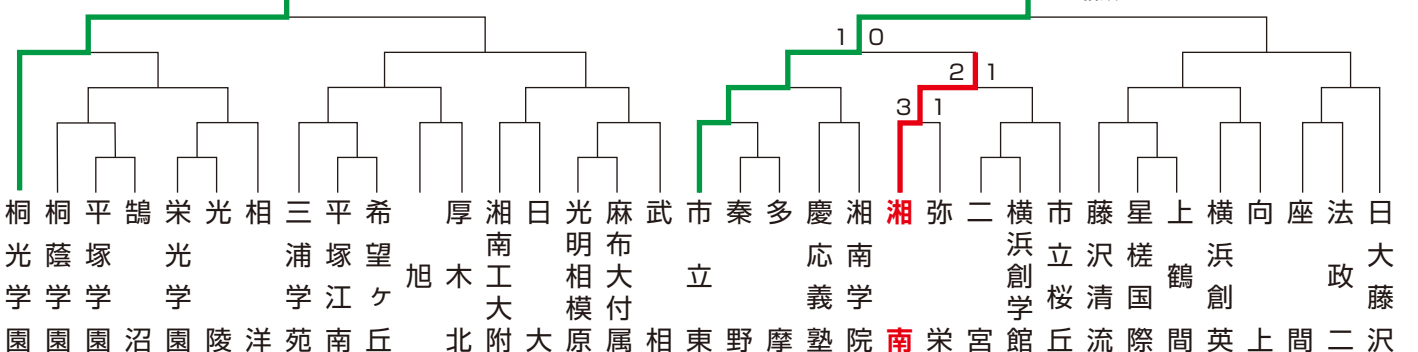


■ 第94回全国高校選手権大会二次予選

桐光学園

全国選手権(お正月)県予選

2次予選、27年振りにベスト8進出。準決勝を目指したが横浜市立東高校に惜敗。



【平成27年度 会計報告・予算案】

収入

	27年実績	28年予算
会費	1,542,000	1,390,000
前年度繰越	250,089	105,152
スペイン遠征（前年度から）	0	400,000
利子	35	0
計	1,792,124	1,895,152

※収入見込み 社会人 150名、学生 30名が納入 10,000×110名+ 5,000×40名+ 3,000×30名

支出

	27年実績	28年予算
現役寄付（付属戦補助含む）	700,000	500,000
蹴球祭	93,000	100,000
スペイン遠征補助	400,000	750,000
通信・事務費	131,972	140,000
印刷費	162,000	160,000
100周年積立へ	200,000	200,000
繰越金	105,152	予備費 45,152
計	1,792,124	1,895,152

●創部100周年記念事業に向け、予算面では、4年前より少しずつでもと内部留保に努めております。そのためにも、是非皆様の会費納入をよろしくお願いたします。現在積立金は、¥900,405-です。

また、100周年事業に対しては、「事業委員会」を作り早めに検討・準備を進めた方がよいと思われます。各代（特に60才以下）に委員への立候補を強く希望します。改めて委員への参加お願いをさせていただく事もあります。その折は、是非よろしくお願申し上げます。

現役寄付・会計報告 平成26年11月1日～平成27年11月12日

収入		支出	
前年度から繰越	-4,506	遠征補助	39,860
寄付	700,000	トレーニング用品等	216,193
その他	0	筑波大附属定期戦	50,000
計	695,494	会場・試合等	112,800
		参加費等	52,460
		海外遠征関連	0
		ボール	79,800
		コーチ費用	144,193
繰越金	188	計	695,306

【28年度会費納入の件】

27年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしくお願いたします。社会人の方は、できましたら2口以上の寄付をお願いいたします。（降り込みには卒業年を入れてください）


- ・社会人 1口 5,000円
- ・学生 1口 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、下記銀行口座も受け付けていますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金 口座番号 019166
 湘南高校サッカー部 OB会
 武藤俊一 TEL. 0466-34-9329

お問い合わせ・ご質問は

【ホームページアドレス】

湘南高校サッカー部  で検索。

湘南サッカー部OB会
<http://www.shonan-soccer.com>

【メールアドレス】

関 佳史（事務局）
seki6644@yahoo.co.jp

武藤俊一（事務局）
muto-s@jcom.home.ne.jp

横山雅行（事務局）
m-yokoyama@heiwa-sangyo.co.jp

グラウンドに来て、旧交をあたためましょう。

[蹴球祭・総会のご案内]



期日：1月10日(日)

場所：湘南高校(グラウンド、清明会館)

普段サッカーをしていない方、
運動不足の方も楽しめるマッチングをします。
是非、お越し下さい。

09:30~10:50	現役 VS トトカルチョ
11:00~12:00	総会 幹事会はその前9:30~
12:15~12:30	現役交歓式
12:30~13:30	食事
13:30~15:30	40以上 OB紅白戦 2面使用 (着替えは清明会館和室使用)

※本部に会長、事務局、鈴木先生がいるようにしますので、必ず立ち寄って下さい。
※受付は総会終了後12:00から開設し、会費納入と引き換えに弁当を配布します。

